

福岡県医発第902号(地)

平成19年 8月31日



各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 横倉 義 武
(公印省略)

「療養病床転換に伴う退院患者実態調査」報告書の送付について

国の医療制度改革により、療養病床の再編が進められておりますが、本会では、療養病床転換に伴い退院した患者の退院前後の状況を把握すると共に、今後の療養病床削減による患者への影響を検討することを目的として、福岡県看護協会並びに福岡県医療社会事業協会の共同調査として標記調査を実施いたしました。

今般、報告書が出来上がりましたので、ご参考までにお送りいたします。

小郡三井医師会より

担当理事 蒲池 壽



療養病床転換に伴う退院患者実態調査

(平成19年5月)

福岡県医師会／福岡県看護協会／福岡県医療社会事業協会

目 次

I. 調査について	2
II. 調査の方法	2
III. 調査客体	2
1. 回答数・回答率	2
2. 転換前後の病床数	3
IV. 療養病床退院患者基本情報	3
1. 年齢別患者数	3
2. 疾患別退院患者数	4
3. 医療処置	4
4. 医療区分・ADL区分について	5
5. 要介護度別退院患者数	7
6. 認知症の程度	7
7. 世帯の状況	7
8. 入院前の所在	9
9. 在宅での介護者の有無	9
10. 入院していた理由	10
11. 退院・転院する理由	10
V. 退院後の状況について	11
1. 患者の希望退院先について	11
2. 介護者の希望退院先について	12
3. 患者と介護者の希望退院先について	13
4. 主治医の考える退院先	14
5. 患者の退院先・転院先	14
6. 患者の希望退院先と実際の退院先について	14
7. 介護者の希望退院先と実際の退院先について	15
8. 在宅患者について	15
9. 退院に際しての相談等について	16
VI. まとめ	19

I. 調査について

療養病床の再編に伴い、県内において療養病床を転換する医療機関が徐々に増加している。今回、平成19年5月1日時点で既に療養病床から一般病床に転換した病院を対象にし、療養病床の転換に伴い退院した患者が退院する際、及び退院後にどのような状況に置かれているかを把握するために、本調査を実施した。

II. 調査の方法

平成18年7月1日以降平成19年5月1日までに療養病床を一般病床に転換した病院を対象（調査時点で24病院）に調査票を郵送し、病床の転換前後の状況及び、退院患者の状況について調査した。

調査票は、病院の基本情報票と患者票で構成されている。患者票については、各病院が転換した日以前から入院し、転換後に退院した患者及び、転換するに当たり退院することとなった患者について、患者の退院援助をした職種（看護師、医療ソーシャルワーカー）が記載することとした。

III. 調査客体

1. 回答数、回答率

基本情報票の回答数は24病院中21病院（回答率87.5%）であり、患者票の回答数は906床中421人（回答率47.1%）であった。

療養病床から回復期リハビリテーション病棟、一般病床（障害者施設等入院基本料算定）に転換した病院については、患者票は回収していない。

	対象	回答数	回答率
基本情報票	24	21	87.5%
患者票	906	421	47.1%

2. 転換前後の病床数

回答施設の転換前の療養病床数は、医療療養病床 1,502 床、介護療養病床 266 床、計 1,768 床である。転換後は、医療療養病床 808 床、介護療養病床 152 床、計 960 床であり、転換前後では、医療療養病床 694 床、介護療養病床 114 床、計 808 床の減床である。

	転換前	転換後	増減
一般病床	1,402	2,096	694
障害者施設等入院基本料	0	122	122
療養病床	1,920	1,226	-727
医療療養病床	1,502	808	-694
介護療養病床	266	152	-114
小 計	1,768	960	-808
回復期リハビリテーション病床	256	266	10
その他	110	110	0
合 計	3,432	3,432	0

IV. 療養病床退院患者基本情報

各病院が転換した日以前から入院し、転換後に退院した患者及び転換するに当たり退院することとなった患者について調査した。

1. 年齢別患者数

療養病床全体の退院患者のうち、前期高齢者である 65～74 歳は 80 人（65～69 歳 29 人、70～74 歳 51 人）、後期高齢者である 75 歳以上では、75～84 歳 151 人（75～79 歳 62 人、80～84 歳 89 人）、85 歳以上 146 人（85～89 歳 73 人、90～94 歳 44 人、95～99 歳 27 人、100 歳以上 2 人）であった。

	40歳未満	40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計
医療療養病床	8 2.0%	34 8.7%	29 7.4%	48 12.2%	60 15.3%	84 21.4%	67 17.1%	36 9.2%	25 6.4%	1 0.3%	392 100.0%
介護療養病床	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	3 10.7%	2 7.1%	5 17.9%	6 21.4%	8 28.6%	2 7.1%	1 3.6%	28 100.0%
全体	8 1.9%	35 8.3%	29 6.9%	51 12.1%	62 14.8%	89 21.2%	73 17.4%	44 10.5%	27 6.4%	2 0.5%	420 100.0%

※年齢未記入…1人

2. 疾患別退院患者数

療養病床全体では、脳梗塞が 19.2%と一番多く、次いで骨折 18.5%、脳出血 9.0%であった。

医療区分別では、医療区分 1 は骨折 27.7%、脳梗塞 21.5%、脳出血 9.9%、医療区分 2 は脳梗塞、慢性腎不全は各々 17.1%、パーキンソン病、肺炎は 9.2%、医療区分 3 は脳梗塞 16.4%、悪性新生物 13.4%、心疾患 10.4%であった。

	脳梗塞	脳出血	骨折	認知症	心疾患	パーキンソン病	悪性新生物	糖尿病	うつ	褥瘡	慢性腎不全	肺炎	その他	無回答	合計
医療療養病床	78	34	76	9	22	13	18	13	3	3	13	15	88	8	393
	19.8%	8.7%	19.3%	2.3%	5.6%	3.3%	4.6%	3.3%	0.8%	0.8%	3.3%	3.8%	22.4%	2.0%	100%
医療区分 1	41	19	53	2	12	1	4	3	1	0	0	4	46	5	191
	21.5%	9.9%	27.7%	1.0%	6.3%	0.5%	2.1%	1.6%	0.5%	0.0%	0.0%	2.1%	24.1%	2.6%	100%
医療区分 2	13	3	5	1	2	7	4	4	1	1	13	7	14	1	76
	17.1%	3.9%	6.6%	1.3%	2.6%	9.2%	5.3%	5.3%	1.3%	1.3%	17.1%	9.2%	18.4%	1.3%	100%
医療区分 3	11	5	0	6	7	5	9	3	1	2	0	3	14	1	67
	16.4%	7.5%	0.0%	9.0%	10.4%	7.5%	13.4%	4.5%	1.5%	3.0%	0.0%	4.5%	20.9%	1.5%	100%
区分不明	13	7	18	0	1	0	1	3	0	0	0	1	14	1	59
介護療養病床	4	4	2	4	5	0	4	0	0	0	0	0	5	0	28
	14.3%	14.3%	7.1%	14.3%	17.9%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.9%	0.0%	100%
全体	81	38	78	13	27	13	22	13	3	3	13	15	93	8	421
	19.2%	9.0%	18.5%	3.1%	6.4%	3.1%	5.2%	3.1%	0.7%	0.7%	3.1%	3.6%	22.1%	1.9%	100%

3. 医療処置（複数回答）

療養病床全体では、喀痰吸引が 23.8%と一番多く、次いで経管栄養 17.1%、酸素療法 14.7%であった。

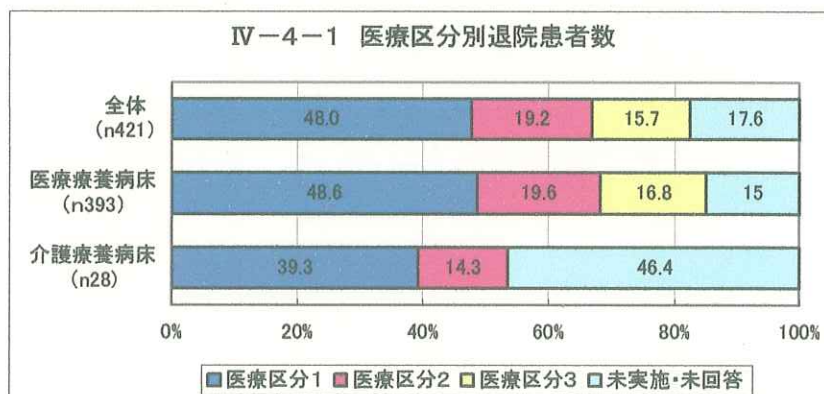
医療療養病床では、医療区分 1 は透析 3.1%、経管栄養 2.9%、喀痰吸引 2.4%、医療区分 2 は喀痰吸引 6.4%、モニター測定 5.0%、経管栄養 4.3%、医療区分 3 は喀痰吸引 11.6%、酸素療法 9.7%、経管栄養と点滴がそれぞれ 7.6%であった。

	喀痰吸引	経管栄養	モニター測定	酸素療法	気管切開	人工肛門	膀胱カテーテル	点滴	(Ⅲ度以上) 褥瘡処置	疼痛管理	透析	リハビリ	その他
医療療養病床	92	67	46	59	15	3	27	42	16	16	14	13	8
	21.9%	15.9%	10.9%	14.0%	3.6%	0.7%	6.4%	10.0%	3.8%	3.8%	3.3%	3.1%	1.9%
医療区分1	10	12	2	6	0	1	1	2	1	4	13	6	1
	2.4%	2.9%	0.5%	1.4%	0.0%	0.2%	0.2%	0.5%	0.2%	1.0%	3.1%	1.4%	0.2%
医療区分2	27	18	21	7	3	1	3	3	3	5	1	5	4
	6.4%	4.3%	5.0%	1.7%	0.7%	0.2%	0.7%	0.7%	0.7%	1.2%	0.2%	1.2%	1.0%
医療区分3	49	32	5	41	10	0	18	32	9	5	0	1	2
	11.6%	7.6%	1.2%	9.7%	2.4%	0.0%	4.3%	7.6%	2.1%	1.2%	0.0%	0.2%	0.5%
医療区分不明	6	5	18	5	2	1	5	5	3	2	0	1	1
介護療養病床	8	5	7	3	0	0	1	5	0	10	0	3	4
	1.9%	1.2%	1.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.2%	1.2%	0.0%	2.4%	0.0%	0.7%	1.0%
合計	100	72	53	62	15	3	28	47	16	26	14	16	12
	23.8%	17.1%	12.6%	14.7%	3.6%	0.7%	6.7%	11.2%	3.8%	6.2%	3.3%	3.8%	2.9%

4. 医療区分・ADL区分について

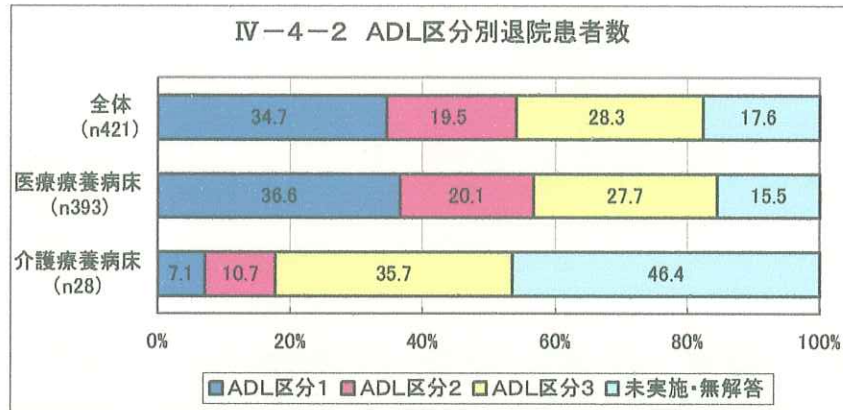
1) 医療区分別退院患者数

療養病床全体の退院患者のうち、医療区分1は202人（48.0%）、医療区分2は81人（19.2%）、医療区分3は66人（15.7%）であった。



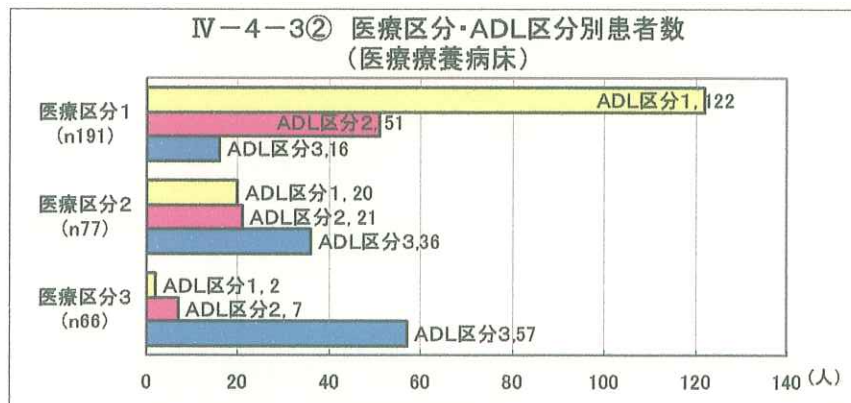
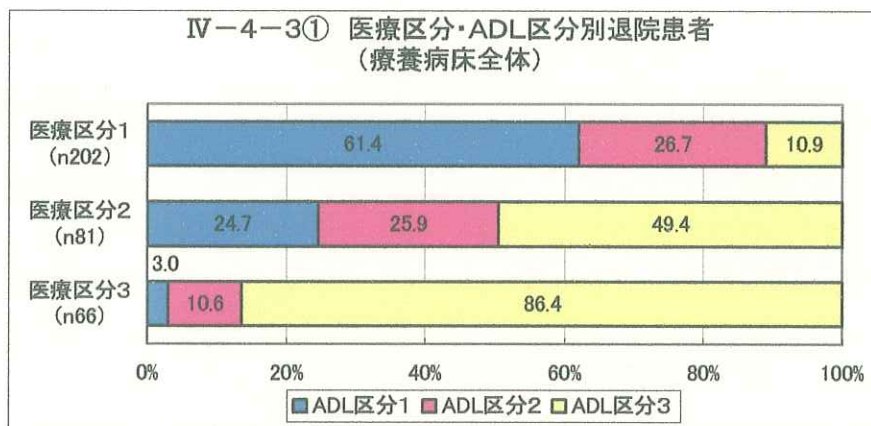
2) ADL区分別退院患者数

医療療養病床及び介護療養病床の退院患者のうち、ADL区分1、146人(34.7%)、ADL区分2、82人(19.5%)、ADL区分3、119人(28.3%)であった。



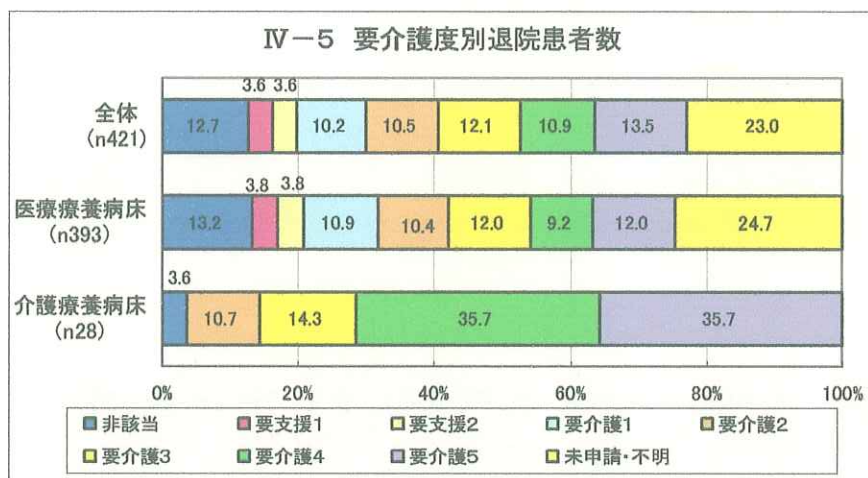
3) 医療区分・ADL区分別患者数

療養病床全体では、医療区分1はADL区分1が最も多く124人(61.4%)、医療区分2はADL区分3、40人(49.4%)、医療区分3はADL区分3、57人(86.4%)が多く占めていた。医療療養病床のみでは、医療区分1・ADL区分1、122人、医療区分2・ADL区分3、36人、医療区分3・ADL区分3、57人であった。※介護療養病床については、客体が少ないため省略。



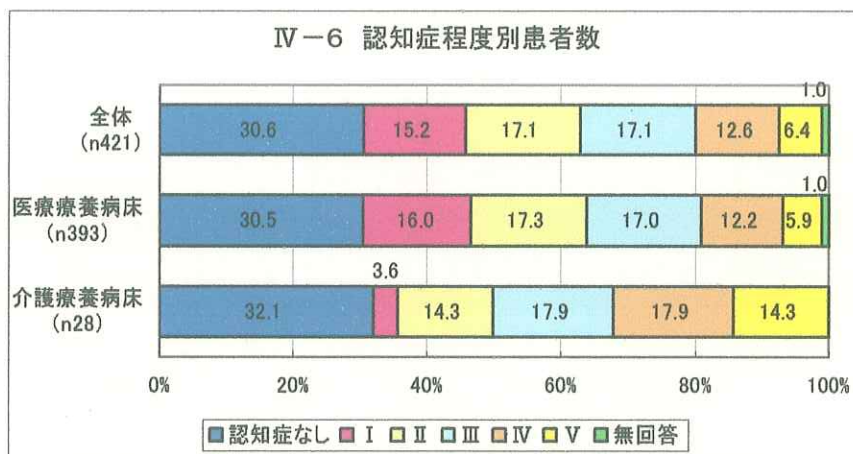
5. 要介護度別退院患者数

療養病床全体では、要介護度5が13.5%と一番多く、次いで要介護度3 12.1%、要介護度4、10.9%で、要介護度3以上の患者36.5%を占めた。



6. 認知症の程度

療養病床全体では、認知症なしが30.6%、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはほぼ同様であった。

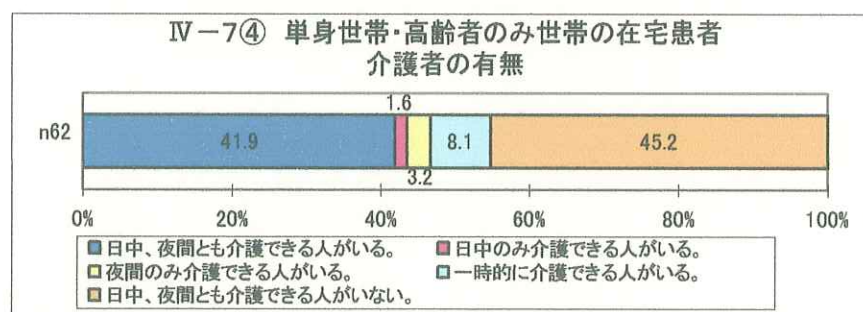
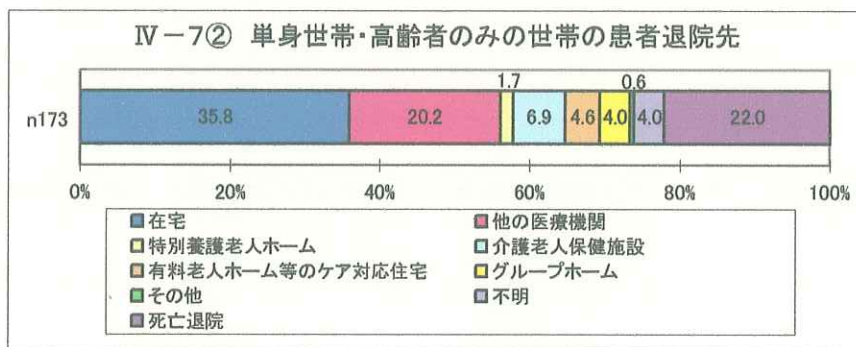
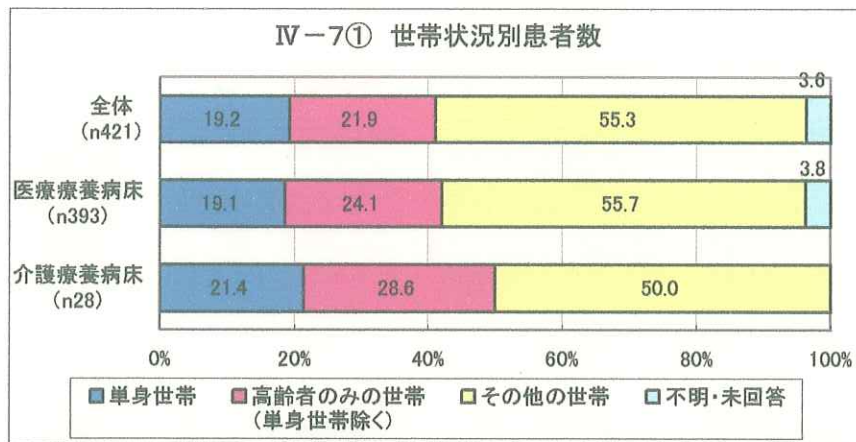


7. 世帯の状況

療養病床全体では、単身世帯81人(19.2%)、高齢者のみの世帯92人(21.9%)と家庭での介護力のない患者が比較的多い。

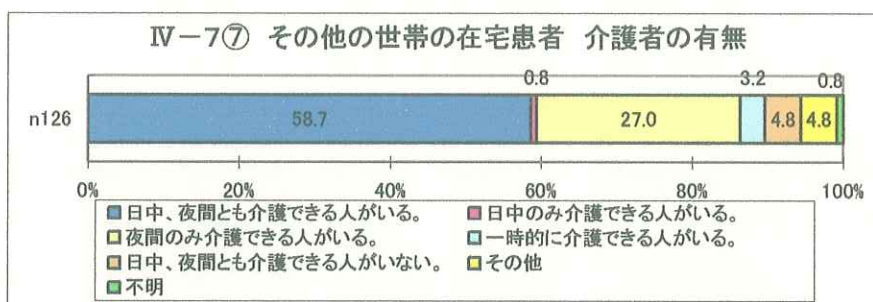
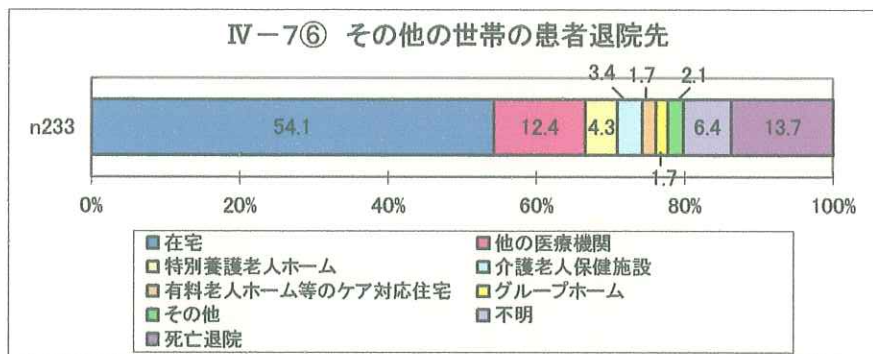
単身世帯及び高齢者のみの世帯のうち、在宅へ戻れた患者は62人(35.8%)であった。在宅患者62人の医療区分別人数は、医療区分1が47人(75.8%)、医療区分2が5人(8.1%)であった。また、これら在宅患者の介護者の有無については、62人中28人(45.2%)が日中・夜間とも介護できる人がいないという結果である。更にこの28人の今後の見通しが「施設の入所待ち」である患者は7人という結果であった。

その他の世帯のうち、在宅へ戻れた患者は 126 人 (54.1%) であり、日中・夜間とも介護できる人がいない患者は 126 人中 6 人 (4.8%) であった。



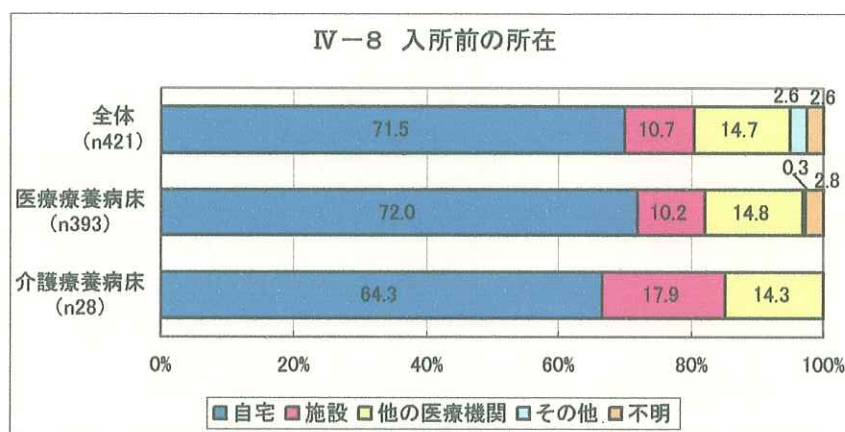
IV-7⑤ 日中・夜間とも介護できる人がいない患者の今後の見通し (n28)

在宅継続可能	施設の入所待ち	分からない
17	7	4



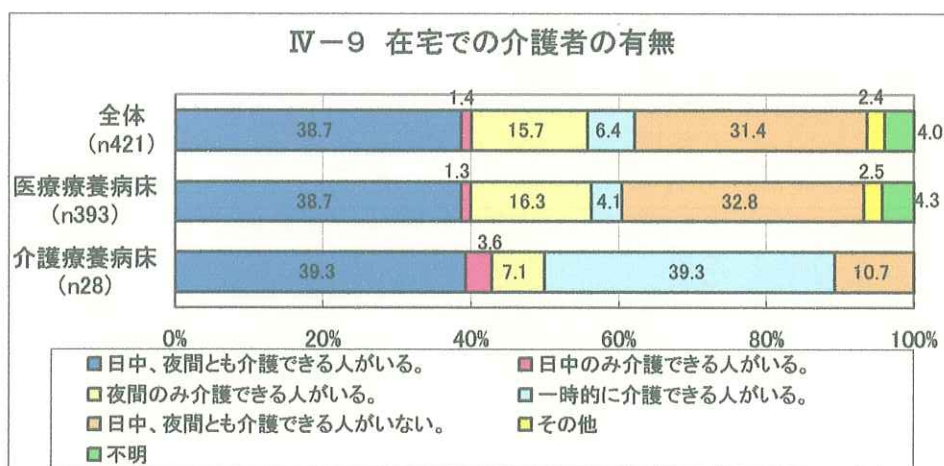
8. 入院前の所在

療養病床全体では自宅が 301 人 (71.5%) と多くを占め、次いで他の医療機関が 62 人 (14.7%)、施設が 45 人 (10.7%) となっている。



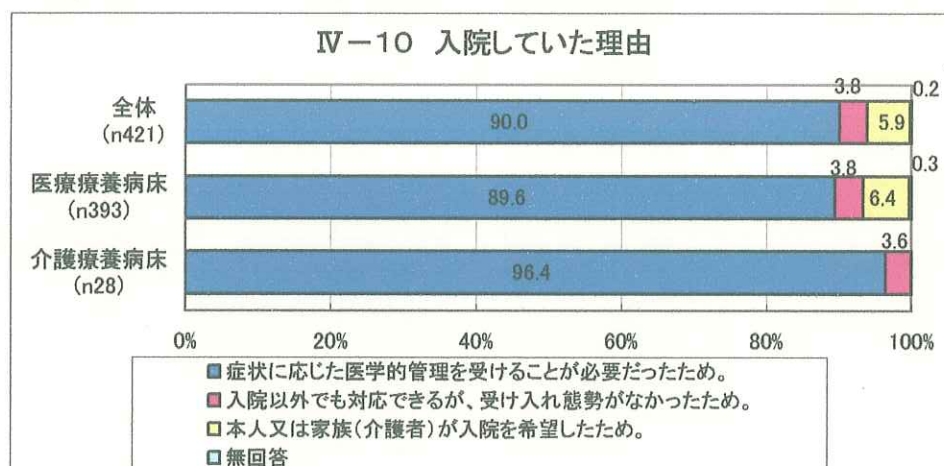
9. 在宅での介護者の有無

療養病床全体では、日中・夜間とも介護できる人がいる退院患者 163 人 (38.7%)、日中のみ介護できる人がいる退院患者 6 人 (1.4%)、夜間のみ介護できる人がいる退院患者 66 人 (15.7%)、一時的に介護できる人がいる退院患者 27 人 (6.4%) という結果である。つまり、一日を通していずれかの時間に介護できる人がいる退院患者は 262 人 (62.2%)、日中・夜間とも介護できる人がいない退院患者は 132 人 (31.4%) であった。



10. 入院していた理由

療養病床全体では、症状に応じた医学的管理を受けることが必要だった患者が 379 人 (90.0%) と多く、入院以外でも対応できるが受け入れ態勢がなかったため入院した患者 16 人 (3.8%)、本人又は介護者が希望したため入院した患者は 25 人 (5.9%) であった。

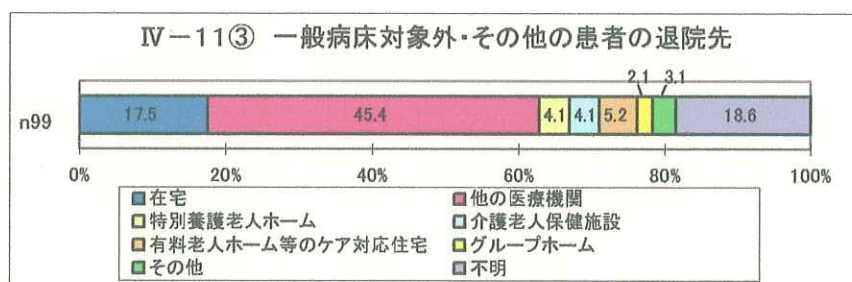
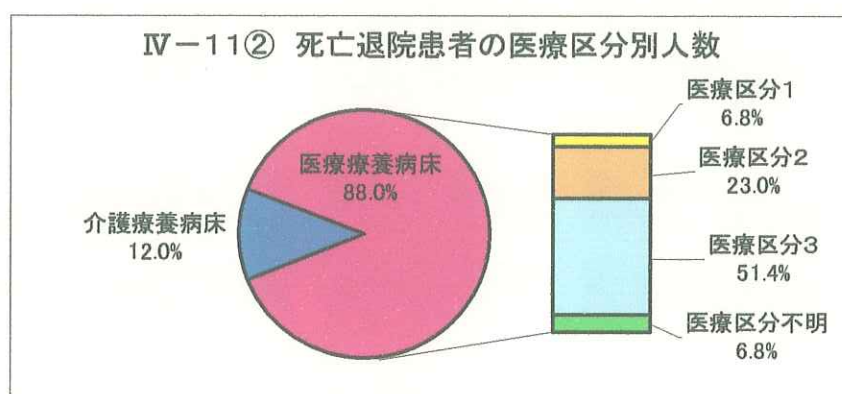
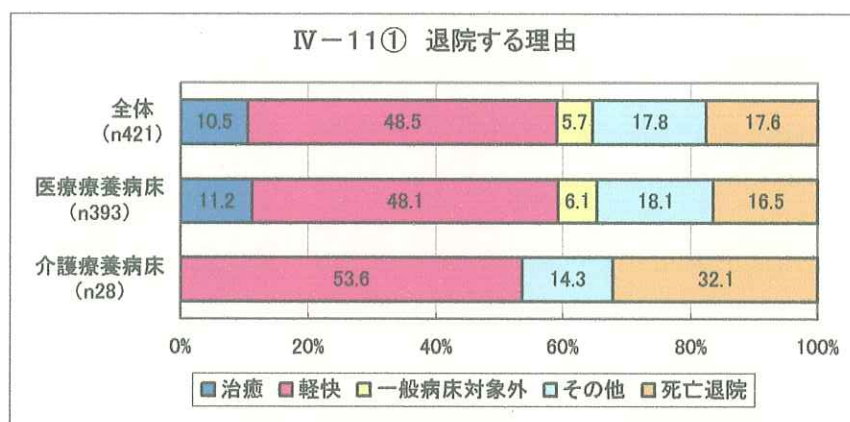


11. 退院・転院する理由

退院・転院する理由は、軽快が約半数を占め、治癒は 44 人 (10.5%)、一般病床の対象外であるため退院せざるを得なかった患者は 24 人 (5.7%)、その他 75 人 (17.8%) であった。死亡退院患者は、医療療養病床 65 人 (16.5%)、介護療養病床では 9 人 (32.1%) となり、療養病床全体では 74 人 (17.6%) である。

医療療養病床で死亡退院した患者 65 人のうち、医療区分 3 が 38 人 (51.4%) であった。介護療養病床で死亡退院した患者 9 人は、要介護認定 4 が 3 人、要介護認定 5 が 6 人という結果であった。

退院・転院する理由が一般病床の対象外及びその他であった 99 人の退院患者のうち、他の医療機関へ転院した患者は 44 人（45.4%）であった。

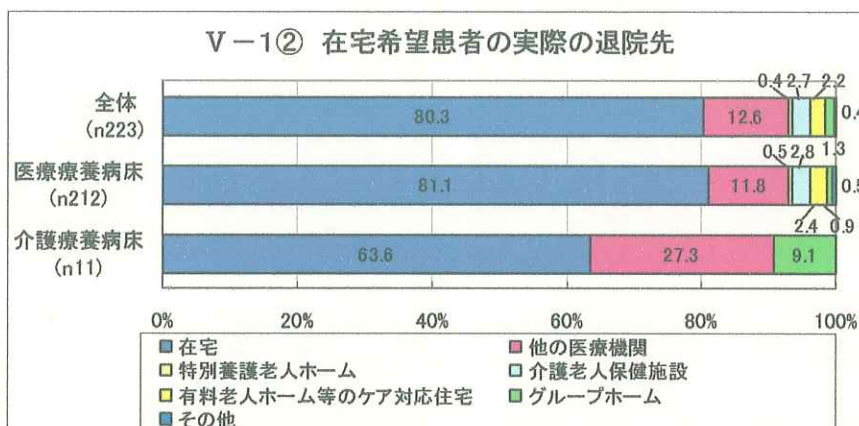
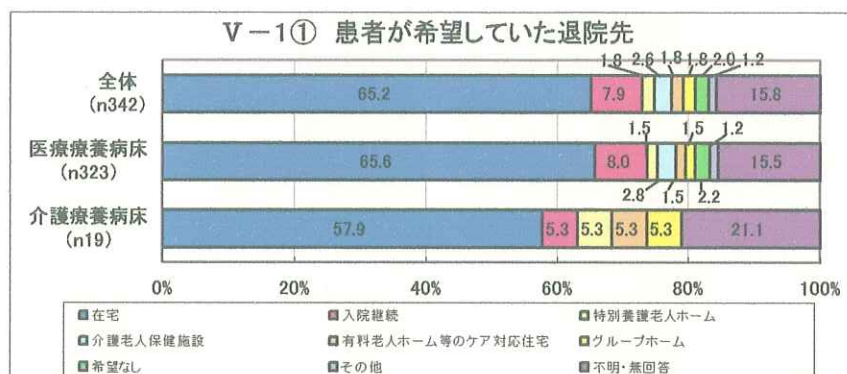


V. 退院後の状況について

1. 患者の希望退院先について

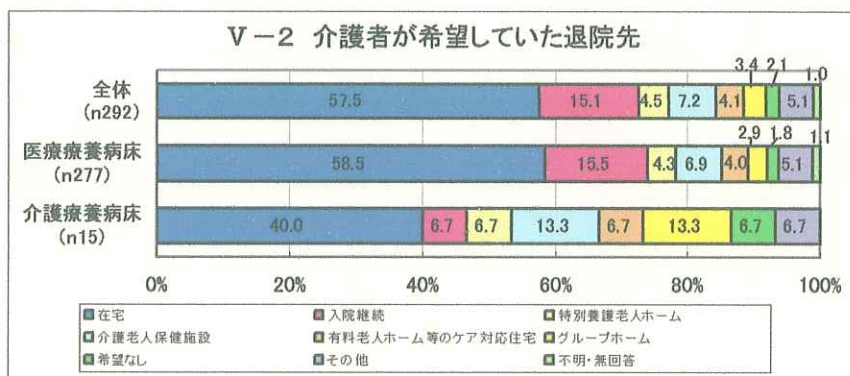
療養病床全体では在宅希望は 223 人（65.2%）、入院継続希望は 27 人（7.9%）であった。特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケア対応住宅・グループホームを希望した患者は 27 人（8.0%）であった。

在宅を希望した 223 人の患者のうち、実際に在宅へ戻った患者は 179 人（65.2%）、他の医療機関に転院した患者は 28 人（12.6%）であった。



2. 介護者の希望退院先について

療養病床全体では在宅希望は 168 人 (57.5%) で、患者の希望に比べ 7.7% 少ない。入院継続を希望した介護者は 44 人 (15.1%) で、患者の希望に比べ 7.2% 多い。特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケア対応住宅・グループホームを希望した患者は 56 人 (19.2%) であり、患者の希望に比べ 11.2% 多い結果となった。

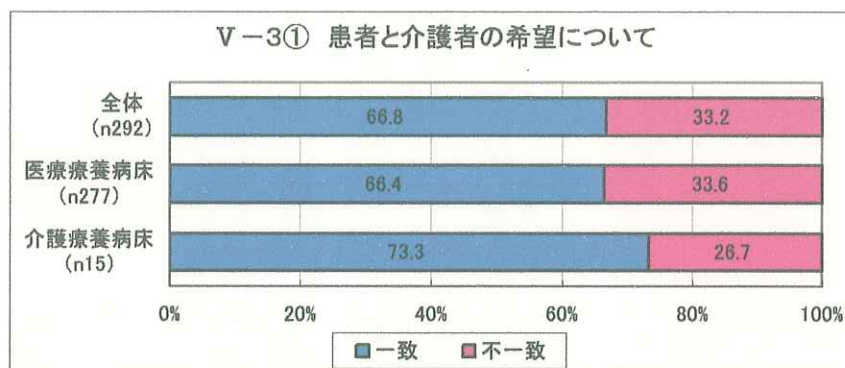


3. 患者と介護者の希望退院先について

療養病床全体では、患者と介護者の希望は 196 人 (66.8%) が一致、96 人 (33.2%) が不一致であった。

患者、介護者が共に在宅希望は 161 人 (55.1%)、入院継続希望は 13 人 (4.5%)、施設入所希望は 22 人 (7.6%) (特別養護老人ホーム 6 人、介護老人保健施設 5 人、ケア対応住宅 5 人、グループホーム 6 人) であった。

患者が在宅を希望したのに対し、在宅以外を希望した介護者は 43 人 (14.7%) (入院継続 21 人、特別養護老人ホーム 1 人、介護老人保健施設 12 人、ケア対応住宅 6 人、グループホーム 3 人) であった。



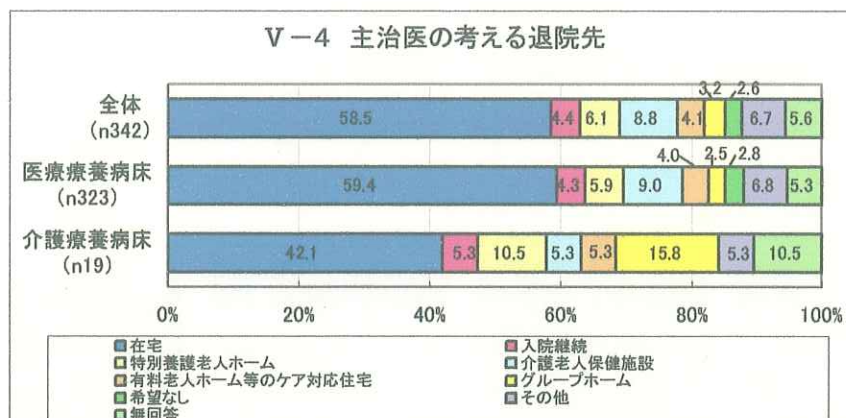
V-3② 患者と介護者の希望退院先について

		介護者の希望退院先								
		在宅	入院継続	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	有料老人ホーム等 ケア対応住宅	グループホーム	希望なし	その他	不明・無回答
患者の希望退院先	在宅	161 (55.1%)	21 (7.2%)	1 (0.3%)	12 (4.1%)	6 (2.1%)	3 (1.0%)	2 (0.7%)	3 (1.0%)	209 (71.6%)
	入院継続	2 (0.7%)	13 (4.5%)	2 (0.7%)	1 (0.3%)			2 (0.7%)	1 (0.3%)	21 (7.2%)
	特別養護老人ホーム			6 (2.1%)						6 (2.1%)
	介護老人保健施設				5 (1.7%)	1 (0.3%)				1 (0.3%)
	有料老人ホーム等 ケア対応住宅					5 (1.7%)				5 (1.7%)
	グループホーム						6 (2.1%)			6 (2.1%)
	希望なし	2 (0.7%)	1 (0.3%)					2 (0.7%)	1 (0.3%)	6 (2.1%)
	その他				1 (0.3%)				3 (1.0%)	4 (1.4%)
	不明・無回答	3 (1.0%)	9 (3.1%)	4 (1.4%)	2 (0.7%)		1 (0.3%)		7 (2.4%)	28 (9.6%)
	合計	168 (57.5%)	44 (15.1%)	13 (4.5%)	21 (7.2%)	12 (4.1%)	10 (3.4%)	6 (2.1%)	15 (5.1%)	292 (100%)

※介護者がいない患者の希望は除く。

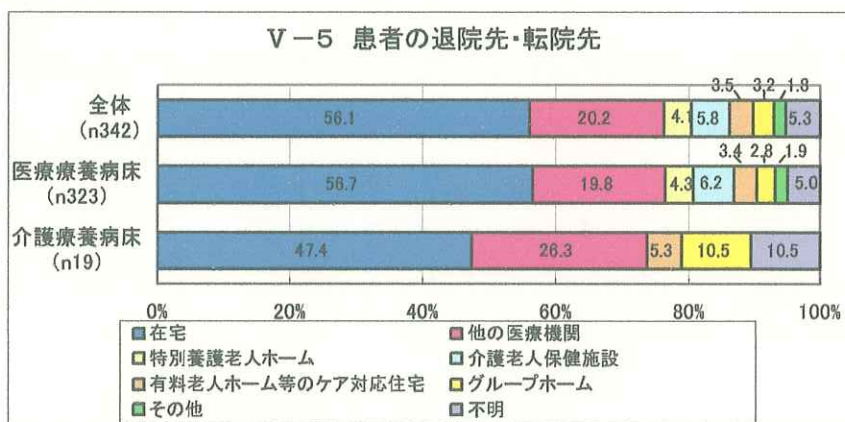
4. 主治医の考える退院先

療養病床全体では、主治医は患者の 58.5%が在宅可能と考えており、そのまま入院継続が必要と判断した患者は 4.4%であった。その他 23 人 (6.7%) のうち、他の医療機関への転院が必要と判断した患者が 18 人であった。



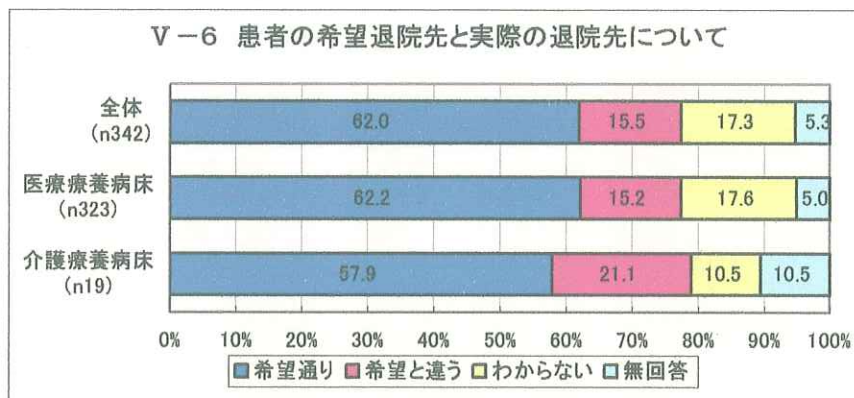
5. 患者の退院先・転院先

療養病床全体の退院先は、在宅 192 人 (56.1%)、他の医療機関への転院 69 人 (20.2%)、他の施設 57 人 (16.6%) である。他の医療機関への転院患者 69 人のうち、他の医療機関の療養病床へ転院した患者は 35 人、救急病院への転院患者は 9 人であった。



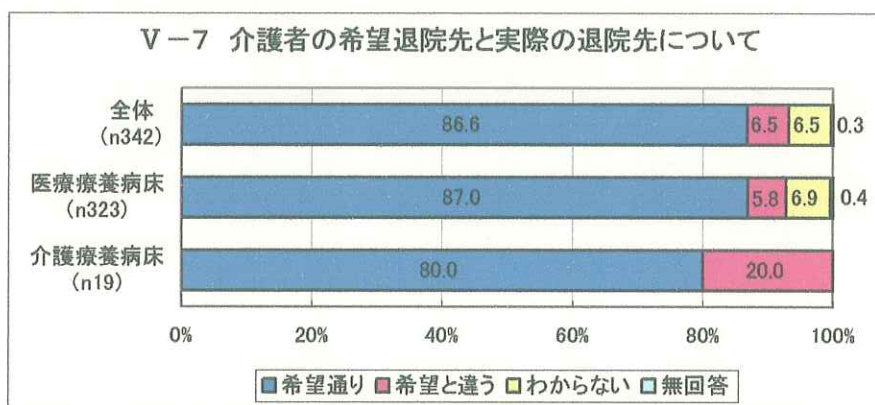
6. 患者の希望退院先と実際の退院先について

療養病床全体では、212 人 (62.0%) の患者が希望通りの退院ができており、53 人 (15.5%) の患者が希望通りではなかった。



7. 介護者の希望退院先と実際の退院先について

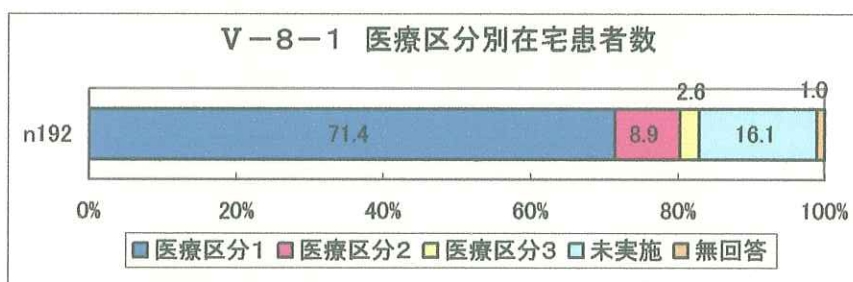
療養病床全体では介護者の希望通りであった退院は 253 人 (86.6%)、希望通りでなかった介護者は 19 人 (6.5%) であった。



8. 在宅患者について

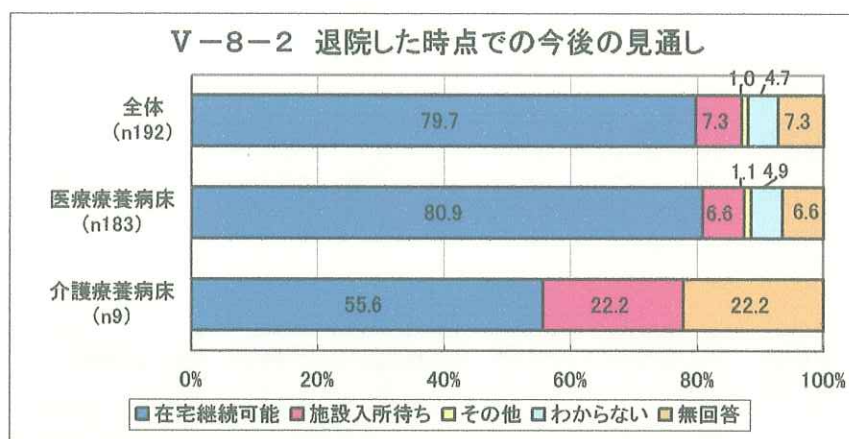
1) 医療区分別在宅患者数

実際に在宅に退院した患者は 192 人であり、そのうち、医療区分 1 は 137 人 (71.4%)、医療区分 2 は 17 人 (8.9%)、医療区分 3 は 5 人 (2.6%) であった。



2) 退院した時点での今後の見通し

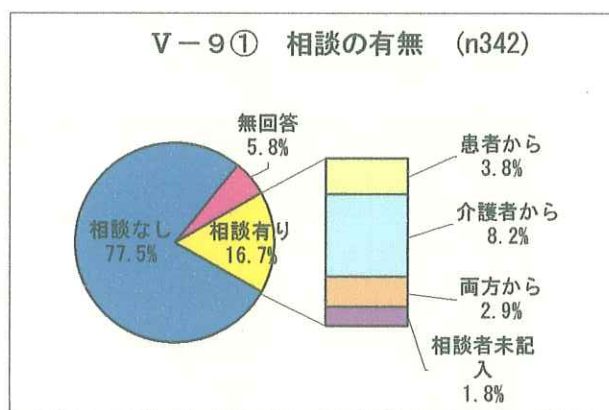
在宅患者 192 人のうち、在宅継続可能な方は、全体では 153 人 (79.7%) である。また、在宅で施設入所待ちは 14 人 (7.3%)、今後の見通しがわからない方は 9 人 (4.7%) であった。



9. 退院に際しての相談等について

342 人中 57 人から相談があり、介護者からの相談は 28 人 (8.2%)、患者からの相談は 13 人 (3.8%)、両方からは 10 人 (2.9%) であった。

相談内容については、退院後の介護に関することが 35 件と最も多く、次いで退院後の医療に関することが 10 件であった。



V-9② 相談内容 (複数回答可)

	退院後の医療 に関すること。	退院後の介護 に関すること。	経済的なこと。	その他	内容未記入	合計
患者	1	6	1	5	2	15
介護者	5	18	2	5	2	32
両方	2	6	1	1	2	12
相談者不明	2	1	0	1	2	10
合計	10	31	4	12	8	69

V-9③ <参考資料>具体的な相談内容

※括弧内は実際の退院先。

a. 退院後の医療に関すること

患者から	・もっと長期に入院していきたい。(在宅)
介護者から	・退院後の通院先はどこにしたらいいのか。(3件)(在宅2件/他の医療機関1件) ・本人が歩行器歩行のため、医療機関への通院方法の相談あり。(在宅) ・医療が必要な状態での退院に対する不満。(他の医療機関) ・主治医は誤嚥の危険があったので、胃管を進めたが、長男は経口摂取を希望した。(在宅)
両方から	・入院中の主治医の対応について。(在宅)
相談者不明	・C型慢性肝炎あり。肝機能の経過観察ができる医療機関への通院の相談あり。(他の医療機関) ・アルコール依存の専門医について。(在宅)

b. 退院後の介護に関すること

患者から	・退院前訪問を行い、浴室とトイレに手すり、入浴時はシャワーチェアが必要である。(在宅) ・夜間のトイレ介助が大変。(在宅) ・日中一人でいるから、もしものときが不安。(在宅) ・一人暮らしにて自宅には帰れない。施設入所希望。(介護老人保健施設) ・妻に負担が来て、病気になってしまう。(在宅) ・独居サービスの相談をうける。(在宅)
介護者から	・介護できない。不安。(2件)(他の医療機関/在宅) ・脳血栓の後遺症としての高次脳機能障害が強く、夜起きてリハビリを始めるなど、介護する妻の負担は大きかった。(在宅) ・介護者も半身麻痺で自宅介護はできない。(他の医療機関) ・本人と介護者の嫁の介護を一人でしなければならないため、負担が大きい。(他の医療機関) ・家ではみれない。車椅子での生活は自宅でできない。不安です。(他の医療機関) ・在宅介護ができない。医療機関の紹介。(在宅) ・PEG 管理に対する不安。(特別養護老人ホーム) ・施設ショートステイをして入所待ち。(在宅) ・住宅改修について。(在宅) ・認知症あり、介護保険を申請し、サービスを導入することとした。(在宅) ・嫁より施設入所をさせたいとの要望。(他の医療機関) ・独居のため、介護保険を申請し、ヘルパーを導入するための相談。(在宅)
両方から	・退院後の介護サービスの利用について。(在宅)

	・施設入所は嫌。他の病院への紹介も嫌。（在宅） ・症状の不安。説明により納得。（在宅） ・家屋調査に関する相談。（在宅） ・子ども間の介護力の問題と本人の調整。（他の医療機関） ・年齢が若いため介護保険対象外、自立支援法にて入浴ヘルパー等を利用した。（在宅）
--	---

c. 経済的なこと

介護者から	・どこか施設に行きたいが、お金がない。（その他） ・金銭的にグループホーム入所は困難。減額認定を受け、老健（認証対応）入所となる。（老人保健施設）
両方から	・施設入所の方が高額になる。（特別養護老人ホーム）

d. その他

患者から	・施設入所にあたり、身元引受人、保証人になる人がおらず、困難を極める。（身寄りなし、生活保護）（グループホーム） ・もっと入院していきたい。（2件）（在宅2件） ・施設に戻るのを引き延ばしたい。リハビリをしたい。（その他） ・認知症だが、施設入所を本人が強く否定。（在宅） 「施設」へ行きたくない。病院が良い。（特別養護老人ホーム）
介護者から	・もっと長く入院させていたい。（在宅） ・在宅で大丈夫か。（在宅） ・「施設」への入所を好まず、「病院」を望んでいた。（他の医療機関）

VI. まとめ

1. 退院患者の状況について

療養病床の転換に伴い、退院した患者 421 人のうち、単身世帯及び高齢者のみの世帯は 173 人であった。そのうち、退院先が在宅の患者は 62 人で日中・夜間とも介護者がいない患者は 28 人である。また、施設の入所待ちのために在宅となった患者は 7 人であった。これに対し、その他の世帯の患者 233 人のうち、126 人が在宅であり、一日のいずれかの時間に介護できる人がいる患者は 113 人、介護者がいない患者は 6 人であった。

退院する理由としては、治癒及び軽快がほぼ 6 割を占める一方、一般病床には継続して入院できず、在宅療養も困難と思われ、他の医療機関へ転院した患者が 44 人という結果であった。患者及び介護者の希望した退院先では、在宅が最も多い結果であり、実際に退院先が在宅という患者が最も多かった。希望通りに退院できた患者はほぼ 6 割を占めるが、4 割の患者は希望通りの退院が出来ていないという結果である。

2. 退院に際しての相談について

退院に際しての相談は、退院患者 342 名中 57 名から寄せられ、内容は退院後の介護に関すること (31 名)、退院後の医療に関すること (10 名) が多かった。具体的な相談内容としては、長期入院を希望していたが退院させられた、医療が必要な状態での退院に対する不満、退院後の通院先が分からない、在宅での介護者負担への心配、介護者の介護不安、施設へ入りたいがお金がない、施設入所は高額であるなど経済的不安、在宅療養継続への不安など様々な不満や不安があることが明らかになった。

今回、療養病床転換に当たり、在宅へ約 6 割、他医療機関、介護施設へ 4 割の方が退院し上記の結果を得た。在宅での介護力が脆弱な社会的背景が進む中、今後受け皿となる介護施設の量的、質的確保と医療度が高い方への医療提供体制の保証が十分整わなければ、今回寄せられた不満や不安を解消することは出来ない。また、今回は既に転換した医療機関のみ対象に本調査を行っており、回復期リハビリテーション病棟及び一般病床（障害者施設等入院基本料算定）に転換した病院については、調査の対象にはなっていないが、患者は継続して同院に入院していると考えられる。しかし、算定日数上限を超えての入院継続は厳しいと考えられ、これらの患者の受け皿についても考えていくべきではないだろうか。今後福岡県で検討される地域ケア体制整備構想によって、入院が必要にもかかわらず、在宅療養を余儀なくされ、介護施設にも入れない医療難民、介護難民が出ないように万全を尽くすべきである。